

2024年3月期 第3四半期 決算説明会 質疑応答

2024年2月7日
株式会社ジェイテクト

Q1. 各地域の売上予測を見直しているが、具体的な見直しの内容は。また、来期の収益はどのように予測しているか。

A1. 直近の客先内示を元に見直しを行った。主な変化点は以下の通り。

- ・日本：一部客先の認証不正による生産調整
- ・中国：EVシフトによる市場変化の影響、および需要減
- ・アセアン：ローン厳格化に伴う減産リスク

来期の収益は以下のように考えている。

- ・日本：客先からの情報では数量は増えそうだが、減産のリスクあり
- ・北米：今期は好調だったが、景気の冷え込みを懸念
- ・中国：厳しい状況が継続
- ・アセアン：中国 BEV メーカー進出による影響を懸念

Q2. 第4四半期は産機軸受の売上が増える予測だが、どのような需要が見込まれるのか。

A2. インフレ影響の客先回収が期末に集中するため、増収を見込んでいる。

Q3. 工作機械事業は北米好調による影響が大きいと思うが、第4四半期や来期以降はどのような収益を予想しているか。

A3. 引き続き好調だと予想している。

今のビジネスモデルは北米で需要が拡大していくと予想しており、さらに伸ばせるよう取り組む。

Q4. 原価低減効果を下方修正しているが、活動が鈍化しているのか。

A4. 物量減により改善面積が目減りするが、活動は予定通り推進中。

来年度も改善アイテムをさらに積上げ、損益分岐点を改善していく。

Q5. 売値下げ影響が軽減されているようだが、第4四半期もこの傾向は継続するのか。

A5. 第3四半期実績は、売上減による値下げ面積縮小に加え、値下げ要請の大きかった中国で客先との値下げ交渉が妥結し、その抑止効果が表れている。

そのため、過月度の遡及効果も含まれるため、第4四半期も効果は継続するものではない。

Q6. 社長交代に至った背景や、今後期待することは。

- A6. 今の会社状況に合わせて最適な人選をした。
新社長候補の近藤は、ものづくりのプロフェッショナルであることに加え、トヨタ自動車のカンパニー組織の長というバックグラウンドを持ち、経営スキルも十分にある。
また、同社において、ギガキャストやコンベアレスの自走化ラインなどを実現した経験を持ち、当社がものづくり改革・新しいものづくりに挑む上で最適な人選であると考えている。

**Q7. 第3四半期は計画と比較しどのような結果だったのか。
また、客先回収等による一時的な増益要素は含まれているのか。**

- A7. 地域・事業間で増減があるが、全体ではほぼ計画通り。
北米などで上期のインフレ影響を客先より一括回収しており、一過性の要因も含まれる。

Q8. 第3四半期の北米の収益は、実力値と考えてよいのか。

- A8. インフレ影響の客先回収など、一過性の要因も含まれるので全てが実力とは言い切れない。
ただし、昨年度は港湾混乱による物流費高騰等、様々な課題があったが、一つ一つ解決してきたため、ここまで収益が良くなってきたのだと考えている。

Q9. 労務費の高騰に対し、客先回収は進みそうなのか。

- A9. 客先からある程度回収ができないと、Tier2、Tier3まで還元することが難しくなるので中小企業庁等から提示されているガイダンスに沿って客先との交渉を続ける。
材料費やエネルギー費の客先回収はシステム化されてきたので、労務費もシステム的に客先回収が行われるように進めていきたい。

Q10. 来年度の収益予測を検討する際、労務費高騰の影響はどのように考慮するのか。

- A10. 収益上のリスクをどの程度考慮するかは検討中。
客先回収だけではなく、社内での生産性改善効果も合わせて影響を考えていく。
ただし、産機軸受・工作機械事業においては客先が多岐に渡るので客先回収が追い付かない可能性があり、そのリカバーをどうするかが課題。

Q11. トヨタグループ他社では持合い株の解消が進んでいるが、ジェイテクトの株式が売却された際、どのような対応を取るのか。

- A11. 持合い株の解消は先方と話し合っている状況であり、詳細はお伝え出来ない。
自社株買いも選択肢の一つとして、最善な方法を検討していく。

Q12. 社長交代により、中計の方針や考え方が変わる部分はあるのか。

A12. 経営者が代われれば変わる部分もあると思う。

しかし、企業は継続性の原則の中で事業運営を行っているため、変わらない部分もある。

具体的な内容は議論している最中であり、現時点では申し上げられない。

Q13. 客先回収は計画通り進捗しているのか。

A13. 計画通り進捗している。

Q14. 欧州の収益は第 2 四半期から第 3 四半期にかけて改善しているが、計画通り活動が進捗しているのか。

A14. 計画通り進捗している。第 4 四半期以降も、構造改革を計画通り進めていく。

以上